

# 令和5年度 第1回国産材の安定供給体制の構築に向けた 北海道地区需給情報連絡協議会 議事録

- 1 日 時：令和5年6月1日（木）9：30～11：30
- 2 場 所：ウェブ会議（Zoom）
- 3 参加者：別紙のとおり
- 4 議事次第及び配付資料：別紙のとおり
- 5 概 要

## （1）冒頭挨拶

（回線接続不安定のため議事の途中で挨拶）

## （2）議 事

### ○（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所北海道支所 嶋瀬 地域研究監

（以下、嶋瀬 座長）

前回の会議は令和5年1月に開催され、原材全般の値上がり等により住宅単価が上がり、特に持家の住宅着工数減に影響している状況でした。

前年、特に前半の輸入材入荷量の増加や住宅の需要減により、部材によっては流通在庫がなかなか消化できない状況も見られ、加えて、為替や木材需要が不透明なことから、見通しの立たない状況を不安視する声も多く聞かれた。

その一方で、輸入材リスクが顕在化した中で、国産材活用への期待であったり、実際に新たに国産材活用が定着したといった意見も出ており、これらの流れをうまく今後につなげていければと感じた。

本日は、議事として、林野庁さんから需給動向や予算措置に加え、クリーンウッド法の改正についての資料説明をいただき、その後、直近の需給の動向等について、ご参集の皆様から情報共有や意見交換をいただきたい。

それでは、林野庁さんから資料の説明をお願いしたい。

### ○林野庁木材産業課 長谷川 木材専門官

資料1～4、参考1～6について説明。

### ○林野庁木材利用課 齋藤 課長補佐

資料5について説明。

### ○嶋瀬 座長

回線の接続状況がよければ、高篠会長さんから挨拶をお願いしたい。

### ○北海道素材生産業協同組合連合会 高篠 会長

本日は、林野庁はじめ北海道森林管理局、北海道水産林務部、林業木材課の皆様、また、道内の林業、木材産業、住宅産業に携わっておられる川上から川下の各分野の皆様には、大変ご多用な中ご参加いただき協議会が開催できることを心から感謝申し上げます。

また、森林総研の嶋瀬先生には今回から座長をお願いしており、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナが5類に移行したことで、景気回復に期待したいが、ロシア・ウクライナ問題とか、円安、エネルギー問題、物価上昇等、日本経済の先行きが見通せない状況です。木材をめぐる環境においても、なかなか先が見通せないことで様々な影響が生じている。

道内は、本州方面と違い、カラマツ、トドマツが主体となっており、構造材として利用拡大に取り組まれているが、現在、木材価格の下落の心配がある。

国産材の需要拡大については、建築物における木材利用の促進に関する基本方針に沿って一層の国産材利用の促進に取り組むとしている一方で、運送会社においては、燃料問題、人手不足の問題、その他いろいろな影響が危惧されている。

このような情勢にあり、道産材の安定的な木材の供給、需要を通じて、可能な限り外材に依存する割合を引き下げていくことが、道内の林業、木材産業の発展に大きく貢献するものと考えている。

それぞれの分野の課題も多く、一朝一夕では解決できるものではないが、情報を共有して同じ認識の下でサプライチェーンが構築されることで、一步でも前進させることが重要かと思います。

本日の協議会での情報共有が各分野の相互理解に繋がり、各分野の取組や国及び北海道の施策や予算などに反映され、道内の林業、木材産業、住宅産業の発展に寄与することを期待している。

終わりに、林野庁さんから既に資料提供いただいているが、皆様からのアンケート回答も含めて貴重なご意見、情報提供など、活発な情報交換をお願いするとともに、木材関連の業界において、道産材が安定して供給され利用される状況となることをご期待申し上げご挨拶とさせていただきます。

#### ○嶋瀬 座長

議事の需給動向の報告と意見交換に移りたいと思います。需給については、先ほど、林野庁さんから説明いただいたように、直近の製品輸入量については引き続き抑制されている状況で、東京港の製材品在庫も昨年夏以降は減少傾向にある。また、国内では、木造が中心である持家の需要が、若干伸びないでいる。

輸入材、国産材ともに価格は下落傾向にあるものの、いわゆるウッドショック以前よりは高値圏で引き続き推移している。

原木についても、地域差はあるものの製品価格の動向が影響して下落傾向にある。そういった中で道産材丸太は比較的高い水準が統計上は続いて見える。その一方で、その製材生産等は若干、低迷している状況報告をいただいた。

まずは、実際の各分野に携わっている方の実感、またはご意見として、川下の建築事業者から、マーケットの動向等を、指名しますので、今までの林野庁さんの説明で示された統計的な情報なども踏まえて、持家や分譲住宅、また、非住宅、それぞれにおける受注の

状況や今後の見通し、価格の転嫁状況、木質資材における需要の変化等の状況、国産材の活用・拡大の事例等について、情報提供、あるいは意見交換をお願いできればと思います。

それでは、住宅関係として、木造住宅産業協会さんから情報提供をお願いしたい。

**○（一社）日本木材住宅産業協会北海道支部 正木 事務局長**

今年に入ってからの状況ですが、住宅の着工棟数は前年割れの状況が続いています。

木材の上昇率は落ち着きつつありますが、建物には、あらゆる資材があるので、それらが昨年から価格上昇が続いており、それを受けて各社様の販売価格にも反映されているところが多く、結果的に建物価格が上昇している状況です。

北海道は、さらに、住宅用地が全国的に見ても非常に高い上昇率が続いており、特に札幌市内においては、もともと高い土地がさらに上がり、空いている土地も少ないことで、慢性的に不足している状況になっている。

建物及び土地が上昇し、総額ベースでお客様が躊躇する状態になっていることから、各社様からは受注状況は厳しいという声が多く聞かれております。

ただ、国の住宅支援施策の補助金等もあるので、それを活用して受注拡大に繋げていくように努めている。

前回まで報告していた資材関係の納期の遅延等というところは、最近、落ち着いている。

**○嶋瀬 座長**

建設価格は上がっているということですが、価格の転嫁ができているのかということと、木質資材の採用状況、特に輸入材と道産材の割合状況や国産材活用の事例について、何か情報があればご提供をお願いしたい。

**○（一社）日本木材住宅産業協会北海道支部 正木 事務局長**

販売価格の転嫁は各社様によって結構大きく差があるけれども、おおむね、大なり小なりあると思うが、販売価格には転嫁されているという形でお伺いしている。

輸入材と国産材というところは、昨年から今年にかけての状況を受けて、国産材への切替えに大きく変化した等という話までは、確認はできていない。

**○嶋瀬 座長**

一般社団法人JBN・全国工務店協会さんから情報提供をお願いしたい。

**○（一社）JBN・全国工務店協会 武部 理事**

今、住宅に関しては、木住協さんが言われたとおりだと思います。

価格転嫁ですけれど、一般の方たちにも資材関係が上がってきていることが大体周知されつつあるが、なかなかスムーズに、これだけ上がったから坪単価が上がりましたというのが受け入れられる状況ではまだない。

住宅以外の、非住宅の木造に関して、これはやはり、収益が上がればそれだけ原価を掛ける、コストを掛けるというのがビジネスの原点と言いますか、そういう意味では、当社においては、比較的、非住宅の受注は順調に、今、推移してきていて、当社は特にワイナリーなど特殊なものが多いので、そういうものはとりわけ木造で行くというのが一つのビ

ビジネス的にもいいのかなという感じである。価格的な転嫁はやはり苦労している。

情報提供ですけれど、今、当社でお話受けているのが、自然素材を原料にした化粧品メーカーが、製品の製造と同じように、宿泊施設を建てるに当たって、森から木材、原木を調達して、製材して、地域の工務店という、まさに川上から川下まで一貫した建築物づくりを、会社の事業イメージに合わせてプロモーションしていくことで、原材料からの建築そのものをビジネスに利用したいというような、複合的な建築の考え方でやり始めた。極めて特殊ですけれど。

以前、当社が道庁と一緒にやった事例ですが、「森の見える家づくり」ということで、道有林の原木をお客さんに見てもらって、それを一貫して、川下まで持ってきて住宅を建てるのが、非住宅のビジネスの木造建築にまで少しずつ広がりつつあるのかな、そういう意味では、そこではあまり価格的なものは、第一優先的にはなっていない感じもします。そういう分野も含めて、新しい流れというか、風が、まだまだ多少ですけれど、先端的に吹き始めたのかなという気はしている。

#### ○嶋瀬 座長

御社は従来から道産材の利用について非常に積極的に取り組んでいただいていると思うのですが、その道産材の材料の供給面について、ウッドショックのときは、かなり厳しい面もあったかと思うが、今どういう状況になっているか、お話をお願いしたい。

#### ○（一社）JBN・全国工務店協会 武部 理事

ウッドショックも、最盛期から比べると随分楽になったという感じは、業界全体で受けています。当社にとっては、従来お付き合いのある供給元がありましたから、厳しい状況ではなかったが、今はやはり、国産材もウェイトが随分大きくなっている感じはします。

#### ○嶋瀬 座長

次に、全国建設労働組合総連合北海道連合会さんから情報提供をお願いしたい。

#### ○全国建設労働組合総連合北海道連合会 矢萩 書記長

皆さん、今おっしゃっていただいている中身と合致する部分については割愛したいと思いますが、全般には、資材、建材の価格については高止まりしている状況が続いている。品不足の感じは、昨今は、解消されていることで、需給のバランスは戻りつつあるというか、安定してきているという話が聞かれました。

また、ウッドショックからこの間、大幅な価格の上昇が、過去に3回大きい波があったことが言われていまして、そのたびに価格が上がってきた訳であるが、現在、ウッドショック前の状況から比べたらどうかというヒアリングしたのですが、大体1.5倍から2倍ぐらいの中で、今、推移をしていて、高止まりの状態である。

武部さんのところと違って、一人親方のリフォームの仕事が多いのですが、そういった中では、お客さんのほうでも、ある程度、価格が高いことについては納得していただいている。町場の仕事の中では、価格の上昇が仕事不足になったり、収益、利益を削らなきゃならないところには、現在、至っていない状況という声が多く聞かれました。

もう一つ、資材そのものの価格ではなくて、燃料費の高騰が、結果的に流通の関係で資材等の価格を押し上げている状況があり、それが結果的に私たちの業界の中では、仕入れと建築、その後の産廃処理の費用も見なければならないので、その産廃処理の費用、処理費が、べらぼうに、今、上がってきている状況がある。

特に、解体・分別したものをリサイクルしなければならないものが、別に出す必要があるが、その引受け側も、従来より受けてくれない部分もあったりもして、そういった場合、自分で遠方までも運ばなければならないこともあるので、資材価格というよりかはその燃料費の関係での価格転嫁が、今、影響が大きいという声がいくつか聞かれました。

**○嶋瀬 座長**

ウッドショックについては、ある程度、落ち着きを取り戻しつつあり、また、そこで上昇した価格の転嫁も、一定程度は、受け入れられているが、それ以外の部分で、燃料高に起因していろいろな問題が生じてきている状況ということでしょうか。

**○全国建設労働組合総連合北海道連合会 矢萩 書記長**

そうです。

**○嶋瀬 座長**

引き続き、北海道プレカットセンターさんから情報提供をお願いしたい。

**○北海道プレカットセンター（株） 岡本 取締役**

プレカットの業界としては、4月・5月と、稼働率が3割減位になっているかと思えます。その中でも、住宅は落ち込んでいるが、低層な非住宅は増えてきているかと思えます。

全国コンビニチェーンと回転すしチェーン等が木造化になってきており、地域材・道産材の活用も進んできております。

大手ハウスメーカーも道産材の活用を進めている状態なので、この先、輸入材と道産材の比率はどうかというと、徐々にでも道産材化に変わってきている傾向が見られます。

その他、倉庫関係も道産材を活用してとか、大体、スパン10 m～12mの横幅を飛ばす建物（倉庫でもコンビニでも店舗）が多くでも出てきてあり、一部の部分を大断面使用かトラス使用がいいのかの問合せの相談が増えてきている。

**○嶋瀬 座長**

道産材活用の動きが、需要側の主導で出てきているというお話を伺ったのですが、その発端はウッドショックにより輸入材の供給安定性に対する懸念が川下側、建築主さんにも高まっていることでしょうか。それとも、ほかに何か要因が考えられるでしょうか。

**○北海道プレカットセンター（株） 岡本 取締役**

ウッドショックの影響の部分も非常に多いと思えます。そのほかでも、異業種からとか、環境面からも道産材・地域材活用といった面を、よく問合せが多くなってきて、両方の見積りというケースも多いと思えます。

今まで輸入材だったものが道産材に変わるっていうので、どんなもんだらうという価格

問合せも多いですし、環境面からも道産材を使いたい、道でやっているものだったらという件もありますし、その他、ニセコ関係の海外投資案件のコテージや住宅に関しても、やはり道産材を活用した建物を建てたいという要望は非常に多く上がってきており、今後もさらに道産材の活用は増えてくると思っている。

#### ○嶋瀬 座長

4人の方からお話を伺って、ウッドショックについてはある程度落ち着きを取り戻しつつある。価格転嫁も、全部ではないけれども、ある程度受け入れられてきている。ただ、その他、燃料費の高騰等により、いろいろな影響が出てきている。マーケットの動向としては、特に非住宅を中心に、道産材を使う動きも出てきていて、その辺りに展望が見えつつあるというお話かと思えます。

次は川中の方々を指名しますので、原木確保、製品の生産状況、需要の変化等の状況、今後の生産体制に対する考え方、国産材の活用拡大等についてお伺いできればと思います。

まず、製材・集成材の分野で、カラマツを中心にやっておられるサトウさんから情報提供をお願いしたい。

#### ○(株)サトウ 松永 代表取締役社長

当社は、梱包材、パレットが多いので、そちらの話が中心になると思います。

今の製品の受注動向ですが、ここ5年、6年のスパンで見ても最悪の状況かなと思っています。生産量で言いますと、通常、忙しかった頃から見ると、15%、多いときは2割くらい少ないイメージで回っています。

工場の操業は何とか定時操業をやっている状況なのですが、月を追うごとに、まだ受注総量で言うと下り坂の途中かなという、体感的にはそんな感じになっていて、各ユーザーさんの話を聞いても、前半戦はもう駄目だろうという見通しが多いかなと思います。

要因としては、国内需要、観光等が、コロナが第5類に移行したこともあって、かなり戻ってきている感じですが、ほかの経済活動を見てみると、特に輸出関連、梱包材関係はそこそこ多いのですが、やはり、中国と米国の覇権争いがかなり苛烈な状況になってきていて、いろんな半導体の製造装置だとかそれに関連するものの輸出は、ほぼ止まっている状況です。

これらが止まると、自動車から何からもみんな大きな影響を受けて、まだ戻ってきたという状況に入ってきてないことで、目下のところ、これに携わる方々は駄目と。

一方で、先ほど来お話もありましたとおり、住宅が悪いことで、住宅関連、木材を扱っている製材工場も我々の産業用資材に食い込んできていることもあって需要が減少している状況です。

原料の集荷なのですが、北海道のカラマツ、トドマツもそうかもしれませんが、通常の動きですと、常に不足感があったという報告を過去もしてきましたが、現在は、特にやはり合板工場さんの引きが弱いことで、不足感が強かった製材工場に潤沢に材料が入った状況なので、原材料に不足感のあるところはほぼないと思います。

しかしながら、価格については、市況が弱い割には居どころが高いまま推移していて、6月ぐらいから若干調整の下げあるかもしれませんが、今のところ、大きく価格が下落する状況には至っていない。

今後の需要動向、下期に向かって回復してくればいいなと期待しているところですが、今のところ、まだその下期以降の見通しについても、元の数字に戻って落ち着くなんてことは考えづらくて、一、二段下がった状態で、また横ばいになるのかなと想定していますので、先ほども話があったとおり、輸入材と国産材のシェアを変えていって、国内だとか道内の製材工場が生き残っていく体制が取れないと、総需要が減るので、今後、難しいなと思っていて、当社としても、このシェアを変えていただくような動きをしながら頑張っていこうと思っている。

**○嶋瀬 座長**

トドマツについて、別の状況があるかと思しますので、佐藤木材工業さんから情報提供をお願いしたい。

**○佐藤木材工業（株） 佐藤 代表取締役社長**

当社のトドマツの製材については、去年と比べると1割ぐらいは落ちている状況です。主に、関東圏の再開発事業等に助けられ、工場を止めなければいけない状況にはなっていない。

昨年、一昨年の余波というか、製品がまず上がって、原料も上がってきた中で、高い原料を手当てしているものがまだ入ってきている状況ですので、市況はそんなに絶好調ではなくても、価格は下げたくもないという状況が、ここ1、2か月は続くのではないのかなと考えています。夏以降、どういう形になるのかは、市況を見ながら考えていきたい。

一方で、集成材については、今まで、皆さんお話しされているとおり、住宅の状況については非常に悪く、昨年と比べて大幅に生産がダウンしている状況です。

集成材部門、若干の注文に対応しながら、6月の中ぐらいから人員を造林作業に回すことで雇用を維持していこうと考えています。

川上側については、素材生産も造林も、安定して仕事はあり、それは変わらず対応している状況です。

**○嶋瀬 座長**

御社は素材生産も大きくやられているので、トドマツ業界一般という話にはならないのかもしれないが、原木の確保については、今、トドマツ材についてはどのような状況でしょうか。

**○佐藤木材工業（株） 佐藤 代表取締役社長**

原木については、困らず入れる状況です。

**○嶋瀬 座長**

ウッドショックがピークだったときと比べてどうでしょうか。

**○佐藤木材工業（株） 佐藤 代表取締役社長**

調達して、量には困ってはいないですけれども、そのときには値段を上げて取っていて、値段の高いものが、今、入ってきているので、市況が下がってきているときに、値段は、いかに下げずに、回していくかというところをいろいろと考えながらやっている状況です。

**○嶋瀬 座長**

製紙パルプとして王子木材緑化さんから情報提供をお願いしたい。

**○王子木材緑化（株）北海道支店 松浦 製紙原料・バイオマス燃料部長**

道内の製紙メーカーの生産量については、国内の紙の総生産量の減少に比較するとそれほど大きな変化はない。毎年少しずつ下がってはいるものの、昨年より若干の減少という程度に思われる。

道内の生産については、ここ数年、比較的維持されている。立地条件、原料背景だとか電力費等の関係で、国内全体での調整はしているものの、道内の紙生産はそれほど変わってない。確実に下がってはいますが、急激な減少ではないところです。

現在、道内で、木材価格はかなり下落してはいるものの、原料材の価格が非常に上昇している。この原因というのが、恐らく、2022年、23年にわたって、各地でバイオマス発電所が稼働したことと、ウッドショックによる合板材だとか低質材の使用品質の格下げによって、急激に、原料材、パルプ材というものが減少した。

また、国有林で、いろいろな配慮の中で、生産が増えていく一方で、一般流通の材が、素材生産業者が増えていない分、一般流通が減っていることが要因の一つではないかと感じている。

その中で、原料材の確保等に向けて輸入しているチップ、特に広葉樹ですが、かなり下落し始めて入手が容易になってきたこともあり、道産のパルプ材の今後の出方、市況等注視しながら、原料の置き換えも考えていかななくてはならない状況です。

**○嶋瀬 座長**

国有林からは、ある程度安定的な供給があるけれども、一般流通材については減少傾向だということですね。その理由については、その少し前におっしゃっていた、バイオマス発電向けの拡大ですとかウッドショックにおける合板需要の拡大あたりが原因なのでしょうか。それとも、生産のほうの問題でそうなっているのでしょうか。

**○王子木材緑化（株）北海道支店 松浦 製紙原料・バイオマス燃料部長**

我々が感じているのは、道内の素材生産業者の数はそれほど増えてないし、そんな中で国有林材の出材は増えているものの、一般流通材（国有林の素材公売、システム販売以外）の出材が、その分減っているような感じがします。一般流通で買えるものがなくなってきたので、みんなが国有林材で買うしかなくなっている状況もあるので、買うチャンネルが限定されてきたところもあって、それが価格の高騰につながっているかなと、原料材に関してはそんな感じがします。

**○嶋瀬 座長**

木質バイオマス発電として王子グリーンエナジーさんから情報提供をお願いしたい。



**○王子グリーンエナジー江別（株）江別発電所 坂口 所長**

当社の発電は、100%バイオマス、その燃料は全て道産材でやっております。確かに、PKSを輸入しているものもあるが。ここ2・3年の稼働状況としては、発電量マックス、設備もマックス状態でありますので、材料、木質の量等はここ2・3年は変わっておりません。

ここ数年のバイオマスのほかの方の稼働状況等も増えていきますので、ご苦労掛けているのは本当に、その材を集めている王子木材緑化等の皆さんの努力の下で、稼働を継続させていただいている状況です。その材をなかなかすぐ買えることはないので、当然、その集荷における協力は難しいところであるが、こっちで、輸送の面での効率にどれだけ貢献できるかということもあるので、その辺も含めて、いろいろとお互いの意見を出し合って対応していくことでこれからも進めていきたい。

**○嶋瀬 座長**

道外ですと、新聞紙上でも、ウッドショックの余波で、燃料材の調達がかなわなくて、バイオマス発電がストップするという話も出ていたが、道内に関してはそこまでの状況はなかったと考えてよろしいか。

**○王子グリーンエナジー江別（株）江別発電所 坂口 所長**

そうです。

**○嶋瀬 座長**

川中部門については、需要が低迷している分野があって、特に住宅用ですとか、あるいは産業資材についても需要が低迷している中で、生産が落ち込んでいる状況があると伺いました。その一方で、その丸太の調達に関してはある程度、融通が利くようになってきている。ただ、まだちょっと高い状態が続いているので、製品価格にうまく乗せていけないとなかなか厳しい状況であるというお話だったと思います。

それでは引き続いて川上の状況について、この春から夏にかけての現地の状況、今後の生産の見込み、樹種や造材に関するニーズ、森林所有者の反応、あるいは今後の生産体制に対する考え方等について、お聞きしたいと思います。

素材生産業者として王子フォレストリーさんから情報提供をお願いしたい。

**○王子フォレストリー（株） 荒井 代表取締役**

アンケートに、伐採量は例年並みで、製材、合板がやや減少して、製紙用、バイオ燃料が増えるとしているが、これは、要するに、現在の情報で、製材工場、合板工場がもう在庫がいっぱいであることで、荷動きが鈍っている。

そうなると、例えば、山土場に置いてある材が、盆を過ぎるともう大分質も落ちてくる。否応なく、いわゆるカスケード利用で言うところのA B C DのC Dのほうが多くなってくるのではないかなという予想です。

当社の作業班の場合は、造材班は1年中造材をしているので、余程の事情がない限り、同じ生産量で仕事を続けていくしかない。従来から言われていたのが、いわゆるA B材で

利益を上げて、C材で原価を薄める。今、当社は枝条なんかも一生懸命集めているが、D材も扱うことでさらに原価を薄め、利益を上げていくことを考えている。とにかくAB材が順調に売れていただかないと我々も経営が厳しい。

実際、ウッドショックのときの価格高騰で利益は短期的には上がったが、実は価格が上がったのに比べて思ったほど利益は伸びなかった。その原因の大きなものは燃料の高騰と重機の値段が上がっていることです。重機は2割ぐらい上がっており、さらに納期も遅れている。納期が遅れると、その間老朽化した重機で急場を凌がなければならなくなり、結果として重機修繕費も増大しました。

結局、作業原価も上がっているのでもっと儲かるかなと思ったらそうでもなかった。これから市場が冷え込んでいく、でも原価は上がったままとなると、厳しいかなと思っている。

最近、私ども、求人活動、一生懸命やっているが、というのも、年齢に相当なばらつきがあって、30歳代がガクンと少ない。それは林業の将来性が暗いということで人を雇えなかった事情があるが、この状態で続けていくと、本当に人がいなくなる。

それで、例えば、20歳の子を雇ったとすれば、その子は70歳定年で50年働くことになる訳ですから、50年続く企業でなければいけない。それには、乱高下じゃなくてとにかく安定した経営がしたいということをいつも思っています。

#### ○嶋瀬 座長

今、道内で、ボリュームはあまり大きくはないのかもしれないが、広葉樹の不足が、特にナラを中心に言われていると思うが、そちらはいかがでしょうか。

#### ○王子フォレストリー（株） 荒井 代表取締役

私ども自身は銘木級のものを伐る機会はほとんどなく、地元の造材業者さんからお願いされて銘木市への出品をやっているんですけども、民有林でも意外と広葉樹の大径材が出てくるなど印象はありました。

但し、広葉樹が増えると言っても、資源背景としては天然林の大径木はそれほどないはず。基本的には人工林の皆伐につれて、あるいは人工林とは言え、もう天然林化したような林から出材される広葉樹が増えるのではないかと想像しています。ということは、製紙用ないしバイオチップ用の原料が増えるくらいかなと私は思っています。

#### ○嶋瀬 座長

基本的に原料材がたくさん出てきて、その中から、いいものがもっと上のグレードで使われていくという、先ほどおっしゃっていたカスケードのような考え方、それがより強いのが広葉樹かという印象を持っていますが、いかがでしょうか。

#### ○王子フォレストリー（株） 荒井 代表取締役

細い材については、例えばシラカバであればきのこ用のおが粉、ナラであれば木炭の原料になります。ただ、それ以外に中径材、大径材が増えるかということ、あまり期待できないかと思っています。

○嶋瀬 座長

次に、今井林業さんから情報提供をお願いしたい。

○今井林業（株） 西村 代表取締役社長

素材生産業自体は、川下に工場があってそこに供給する重要な立場。それと森林整備。

今、高篠会長さん含めて、状況は厳しいですということは、これは間違いないと思うんです。状況が厳しいことは、それなりに製材工場も挽き立てが落ちて、生産量も少なくなる。

当社としても、ある程度、生産量を落とすとコスト(単価)が高くなるので、生産量だけは落とさないで、1年間を過ごさなければと思っています。

仕事の内容としては国有林の生産請負が、5万m<sup>3</sup>強で、あと、自分のところの立木は2万5千~3万m<sup>3</sup>。これで1年間をある程度経営していく中で、自分のところで立木を買って販売する部分、これが一番厳しいので、ほとんど国有林の立木を買受けしているが、立木を買受けする段階で搬出期限が3年という部分がある。北海道どこでもそうなんですけれども、冬でなかったら材は出してこられない箇所がある。

8月に入札で取った物件になると、今年みたいに市況が悪いと、質のいい木はもう少し置きたいと思っても、8月に搬出期限が来るからやらなければいけない。これが、その年の年度で、4月~3月までに取った物件は、搬出期限が年度末の3月までになると、すごく楽なのですが、そういう部分がなかなか厳しい。

素材を生産する中で、製材工場がよければ、品質の部分では多少緩くなるので、例えば100%生産した中で、今年度は70%製材工場向けがある。この先厳しくなれば厳しくなるほど、品質の問題が出てくるので、今年の70%、一般材であれば、夏以降は半分以下かなという考え方をしていけないといけない。その中でも、当然、チップ原料含めてバイオマス原料になる。この市場が、製材工場から見ればまだ一般材を取っていただけるかなという部分があるので、1年間のサイクルを見ながら、夏以降はまだまだ厳しくなるという状況の中で安定供給を含めて考えていきたいと思っています。

もう一点、運送関係、燃料も当然上がる。買い入れする高性能林業機械も上がる中で、運送に関してはもう既に4月から7~10%上がっている。この後、運送業について10月から大きくまた変わってくる部分があるので、そこも、上げていかなければならないのかという部分で、生産性はある程度横ばいか、ある程度プラスしている。ただ、生産性を上げてコストを下げるのは今年は難しい。先行き、そんな状況かなと思っています。

○嶋瀬 座長

生産の安定のためには季節性も考慮しなければいけないこと、輸送の問題が改めて表面化してきているというお話を伺いました。

次に、北海道森林管理局さんから情報提供をお願いしたい。

○北海道森林管理局 今村 資源活用第二課長

北海道森林管理局の本年度の製品生産量は、昨年度の10%アップとなっており、現在、

5月末現在でその約8割強契約をさせていただいている。残りについても早期に発注、市場に木材を供給していきたいと考えている。

一方、立木販売量は昨年と同量を計画しているが、素材生産事業者と立木販売事業者が同一の場合が多いため、素材生産量が増加している中であって、なかなか厳しいのかなど肌で感じている。立木販売につきましては、6月以降、随時、公売等で実施して行く予定としておりますのでよろしくお願いしたい。

素材の販売は、4月、5月は前年度に生産された越し材を提供しておりましたが、6月からは新材も提供させていただきますのでよろしくお願いしたい。

国有林素材公売の結果について、一般材は、年明け以降価格の上昇は見られず、入札不調という物件も見られました。

来年以降、トラック運転手不足といった不安材料もありますが、北海道森林管理局の重点取組事項として、輸送時期に関係なく、また、大量に運べるように、中間土場の設置に取り組んでおり、今後もその拡大に向けて取り組んでいきます。

広葉樹の関係については、今は人工林を伐採して、その中にある広葉樹を提供しているが、過去に伐採した天然林においても、将来における広葉樹の安定供給に向けて、伐採をどうしていくかということも検討が始まっていて、各地区で現地検討会を開催し、場合によっては業界の皆様方のご意見を頂きながら対応していくような取組も進めていきますので、ご理解をよろしくお願いしたい。

#### ○嶋瀬 座長

森林整備センターから情報提供をお願いしたい。

#### ○(国研)森林研究・整備機構森林整備センター北海道水源林整備事務所 木村 所長

私ども森林整備センターにつきましては、毎年の予算、それから、事業の方式として、分収造林契約という契約方式でやっており、民有林で実施していることもあり、所有者の方と協議を進めて、毎年、できるだけ多く事業を実施していきたいと考えており、令和5年度の量は、全体で4万 m<sup>3</sup> 程度、その内訳として、間伐で3万 m<sup>3</sup>、主伐、更新伐で1万 m<sup>3</sup> を予定しています。

毎年、予算の絡みがあるので微々たる量ではあるが、計画的に事業を進めて、少しでも多く出していければと思っていますので、よろしくお願いします。

#### ○嶋瀬 座長

次に、苗木生産者として北海道山林種苗協同組合から情報提供をお願いしたい。

#### ○北海道山林種苗協同組合 早苗 専務理事

苗木の需給計画単位は、秋、春ですから、去年の秋と今年の春の状況について説明させていただくと、カラマツやトドマツを主体に、造林用山行苗木として出荷をしている訳ですが、国有林、道有林、一般民有林からそれぞれ需要があった本数につきましては、去年の秋、今年の春分で約1,700万本、大体前年並みの苗木の使用希望量、需要量となっています。

既に去年の秋に、このうちの4割、700万本ぐらいを出荷しており、最近、春植えの造林が多くなってきて、残り1,000万本近くは、今年、雪解けが非常に早かったが、4月から現在も山行苗木の出荷が続いている状況です。

ほぼ前年並みの需要ではあったが、今年の1月、主要のカラマツについて約70万本ほど苗木が余ってしまう状況が出てきたものですから、道の森林整備課、道森連に大変ご協力をいただいて、各地域の造林推進を図っていただいたお陰で、その70万本はかなり圧縮している状況です。

川下の木材需給の動向により、今後伐採の切り控えなどが生じた場合に、造林面積が減るイコール苗木の使用量の減少に繋がることから、今後もしろいろな形で、この木材需要の動向を注視していきたい。

#### ○嶋瀬 座長

コンテナ苗の生産計画も北海道で見直しをされましたし、いろいろ環境も変わっていくものと考えております。

素材生産業全体としての事業量の安定ももちろん大事ですし、マーケットの変化に応じて増産をしたり減産をしたりというような流動的な対応も必要な訳ですが、それ以前に、道内業界全体としてのキャパシティの問題があって、需要が急激に高まった場合にもなかなか増産とはならない難しい状況があるというように理解しました。

また、トラックの問題、コロナの前にこの協議会でも随分話題になっていましたが、経済がだんだん動くようになってくる中で、燃料代の高騰もあって、もう一度、新しい問題として浮上してきているのかなという印象を受けました。

全体を通してコメントを北海道大学の佐々木先生にお願いしたい。

#### ○北海道大学大学院農学研究院 佐々木 教授

アンケートに書かれていて、特に、川上、川中の方々から労働者不足のことが、課題として挙げられてあったのがすごく気になったのですが、最初の林野庁の支援とかでどういうものが対応できるものなのか、どういう対策を考えられているのかとか、今回ではなくて結構ですが、そういうことも、次回でも、教えていただけたらなと思いました。

#### ○嶋瀬 座長

林産試験場の酒井さんをお願いしたい。

#### ○(地独) 北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場 酒井 研究主幹

皆様のお話お伺いいたしまして、非常に供給の弾力性の低い業界ということで、苗木生産にしても伐採計画量の増加にしても、タイム・ラグが業界全体を苦しめている状況なのかなとお聞きしました。

多分、去年、議題になったと思うが、空前の原木不足の中で、川中の方々がいつもと違う樹種とかいつもと違うエリアの原木を試されたことで、かなりいつもと勝手が違ったり、材質のミスマッチなど、いろんな問題が起きて、それが一転して、今もう在庫が山のようにになって、むしろ在庫投資が不安になるぐらいになっているのが今の状況かな

とお聞きいたしました。

それで、あくまで私のお聞きした範囲ですが、非常に、価格が上がったり、悪い原木が入ったりということで、川上と川中の軋轢がこの5年ぐらいで今までになくちょっと深まってしまったのかなと思っておりまして、今までの皆様のお話伺いますと、苦しい今こそ、今まで皆さんが大事にしてこられたサプライチェーンを強化していかないと、道産材がこれから浮上していくことがなかなか難しくなるのかなと思います。

今すぐにどうこういうことではないんですけれども、少なくとも、こういう情報交換の会議を通して突破口が少しでも見えていけばいいなと聞かせていただきました。

#### ○嶋瀬 座長

佐々木先生のご指摘にあった労働力不足の問題、抜本的な対策として林産試験場さんの敷地内に、全国を見渡してもなかなかないような年間40人規模の人材育成体制が、北の森づくり専門学院として整っております。実際、卒業生が道内各地に就職をして戦力になりつつある状況もありますので、そういったことも全体構想の中に入れながら、北海道としてどういうふうに人材確保していくかが、今後、重要な検討課題であると、コメントをお伺いして感じました。

また、酒井さんからご指摘のあった、道内の林業界と木材産業、あるいは、もっと川下との間でのいろんな問題が、今回、ウッドショックを通じて表面化してしまった面があるのではないかということについては、実際、そういう面もあるかもしれないと思います。ただ、今、輸入材の消化、高値で買ってしまった輸入材をいかに利益を乗せながら消化していくかが道内木材流通の中でも非常に重要な問題となっている中で、これが一段落つけばという思いもある。今回のウッドショックでは、皆さん相当しんどい思いをされたと思うので、道産材を使って回していけるような体制を作ろうという機運が私は出てくるのではないかと、やや楽観的かもしれませんが、思っているところです。

道産材への期待が高まる中で、流動性が低く、その期待に応えづらい道内の林業界、木材業界というご指摘だったが、キャパシティを大きくし、流通がそれに対応できるようになっていけば、マーケットの安定性にも貢献できるのではないかと考えているところです。

今までの議論を通じて、なにかあればお受けしたい。

#### ○北海道地区協議会事務局 工藤

道内の輸入材の動向は現在どうなっているのか、今後どうなっていくのかが関心事の一つになっていると思いますので、物林の中根さんに教えていただきたい。

#### ○物林（株）営業本部札幌支店 中根 支店長

今の現在の輸入材の状況は、先ほどまでの皆さんのお話のとおり、かなり価格としては下落しております。

資料にもあったとおり、輸入量としてはこれから夏場にかけてまだまだ減少をしていくといった状況です。価格動向も、製材品、集成材、梱包材も含めて、過去のようなそれぞれ

れの適正な差というのが、今、全くない状態で、集成材と製材と、極端なこと言ったら梱包に近いものまで同じような価格になっているような状況で、正常な状態にはまだ戻っていないといったところです。

今後もヨーロッパを中心にして輸入はされますが、夏休みの期間に入ってくることや、ヨーロッパ自体が造材量も少ないといった状況で、先々も、物が余って増えてくるといったことにはならないだろうという見通しであります。

価格に関しても、ウッドショック以前に戻るといったことはないだろうと見込んでいます。原木在庫も、合板メーカーも含めて、今現在原料製品とも、全てが適正な在庫水準となってきた状況なので、これから数か月かけて落としどころを見つけていくことになると思われます。

#### ○嶋瀬 座長

今、ウッドショックで上がっている部分と反動が来ている部分と、両方ミックスなのかなと思っているが、中根さんからご覧になって、正常化というか、こういった混乱が落ち着くのはいつ頃になりそうか、展望を教えてください。

#### ○物林（株）営業本部札幌支店 中根 支店長

現在、思いのほか早く在庫の調整が進んできている。この数か月で本州に関しては在庫調整が付きそうだ。北海道は、まだ少し時間がかかり、価格調整などもう少し調整は必要かと思うが、夏ぐらいまでには在庫も落ち着き、先が見えてくるのではないかと思います。

#### ○嶋瀬 座長

本日、互いに立場の異なる多くの皆様から多様な状況のご報告や、重要なお意見をいただきました。

分野ごとのまとめについては、これまでの議論の中で示されていると思いますし、お二人の先生方からもコメントを頂いていますので、ここではしないでおこうと思います。

まだいろいろ不透明な状況、見通せない状況が続いているので、今後とも、この需給情報連絡協議会を含む様々な場を通じて、各種関連情報を共有していくことが大変重要と感じている。引き続き、皆様のご協力の下、議論が活発に進められたらと考えています。本日はありがとうございました。

以上